令和6年度第2回

板橋区情報公開及び個人情報保護審議会

会 議 録

板橋区総務部区政情報課

令和6年度第2回板橋区情報公開及び個人情報保護審議会

- 1 開催年月日 令和6年11月8日(金)
- 2 開催場所 板橋区役所南館4階 災害対策室AB
- 3 審議会委員
会長	佐藤	信行
副会長	岩隈	道洋
委員	高木	祥勝
	河野	雅子
	真野	英人
	浅野	衣理奈
	近藤	タカヒロ
	いがらし	学
	おばた	健太郎
	小柳	しげる
	尾科	善彦
長沼	豊	
- 4 事務局
総務部長
区政情報課長
IT推進課長

午前9時30分 開会

○区政情報課長 皆様、本日は、大変お忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。定刻になりましたので、ただいまから令和6年度第2回板橋区情報公開及び個人情報保護審議会を始めさせていただきます。

初めに、須藤委員につきましては、都合により、本日ご欠席との連絡をいただいております。

また、本日、東武東上線が信号機のトラブルということで、電車が止まっていたり、大変遅延していたりしていますので、少々、委員の方が遅れてこられるかと思いますが、ご了承くださいできればと思います。

続きまして、添付資料についてでございます。

添付資料につきましては、次第に記載のとおりでございます。

資料につきましては、事前に郵送させていただいておりますが、過不足等ございましたら事務局にお申しつけください。会議の途中でも結構ですので、遠慮なくお申しつけいただければと思います。

それでは、これからの会議の進行につきましては、佐藤会長にお願いしたいと存じます。よろしく願いいたします。

○佐藤会長 ありがとうございます。おはようございます。

ただいまから令和6年度第2回情報公開及び個人情報保護審議会を開会いたします。

ただいま区政情報課長からご紹介がございましたように、本日、交通遅延によりまして、委員がまだ全員出席予定の方がそろっていないという状況でございますけれども、定足数は満たしておりますし、何時になればお着きいただけるかということ自体が不明な状態でございますので、一旦、開会させていただいて議事を進めておくことにしたいと存じます。このような進行でよろしいでしょうか。

(異議なし)

○佐藤会長 ありがとうございます。

それでは、中身に入りますけれども、本日、傍聴のお申し出はなかったと事務局から報告を受けております。

本日の議題は、特定個人情報保護評価についての諮問と事務局からの報告事項が2件ございます。効率的に議事を進めたく存じますので、ご協力をお願い申し上げます。

それでは、早速ですが、資料1の特定個人情報保護評価について、に移りたく存じます。

本日ご審議いただくのは、資料1-2から1-9、八つの評価書に係る特定個人情報保護評価の再実施になります。

なお、この後に予定しております報告事項のうち、小委員会審議状況報告につきましては、特定個人情報保護評価に関し、本年9月17日に開催しました小委員会の報告ですので、本件議題と併せて報告を申し上げるということで、効率的な進行に資したいと考えております。ご協力をお願い申し上げます。

それでは、小委員会における評価書の第三者点検の結果も併せて、事務局から報告をいただきます。

○区政情報課長 では、事務局より報告申し上げます。

それでは、会長からお話しいただきましたとおり、議題、特定個人情報保護評価につきまして、報告事項(1)小委員会審議状況報告と併せて説明、報告させていただきます。

資料1-1、A4判、横の資料をご覧くださいと思います。

「一定期間(5年)経過前の再実施及びガバメントクラウドサービス利用による重要な変更に伴う評価書変更箇所一覧」という資料になります。

本日審議いただく内容は、2点ございます。

1点目が、項番1の一定期間経過前の再実施に伴う変更。

2点目が、項番2のガバメントクラウドサービス利用による重要な変更でございます。

まず、項番1、一定期間経過前の再実施に伴う変更についてご説明いたします。

こちらにつきましては、番号法及び特定個人情報保護評価に関する規則に基づき、評価書を公表してから5年を経過する前に特定個人情報保護評価の再実施をするよう努めるものとされていることを受け実施するものでございます。

対象評価書につきましては、記載のとおり、全項目評価書である住民基本台帳に関する事務と、重点項目評価書である国民健康保険に関する事務の2種類でございます。

これらにつきまして、評価の再実施を行った結果、資料1-1に記載されておりますとおり、変更等はございませんでした。

続きまして、こちらの変更なしという結果に関して、小委員会による審議状況をご説明させていただきます。

資料2の1ページ目をご覧ください。

「令和6年度第1回小委員会審議状況報告(概要)」というA4横判の資料でございます。

A 4 縦ですね。失礼いたしました。

1 ページ目の小委員会の開催日時、開催場所、出席者は記載のとおりでございます。

佐藤会長、飯塚委員、高木委員にご審議いただきました。

岩隈副会長につきましては、所用により不参加でしたが、事前に意見をいただいた上で審議させていただいております。

続きまして、審議内容でございます。

資料 2 の 2 ページ目をお開きいただいて、中ほど、少し上に、3、審議概要というところがあるかと思しますので、ご覧ください。

(1) 一定期間（5 年）経過前の再実施について。

(ア) 「住民基本台帳に関する事務」について、2 点の質疑がございました。

1 点目（ア）です。再実施に伴い変更はないとのことだが、業務を運用している中で気づいた点、より改善すべき点があれば教えていただきたいという質問に対して、所管課、対象人数は 5 7 万 4, 7 6 8 人であり、3 0 万人以上であることに変更はない。

取扱者数も従前と特段変わりなく 2 6 0 名程度である。

この部分につきましては、第 1 回の審議会でご説明させていただいております。

事務の流れが大幅に変わったということはないため、評価書の変更は必要ないと考えているが、マイナンバーカードを活用してできる事務が増えているため、セキュリティを担保しながら事務を進めているというふうに回答させていただいております。

質問の 2 点目でございます。

ヒヤリハット案件があれば、対応措置を評価書に追記する必要があるため、事例があれば教えていただきたいという質問に対して、所管は、ヒヤリハット案件はなしというふうに回答させていただいております。

続きまして、重点項目評価書である国民健康保険に関する事務についてでございます。

こちら、2 点、同様の質問がございました。

1 点目の業務を運用している中で気づいた点、より改善すべき点がもしあれば教えていただきたいというところなんですけれども、前回、マイナンバーではなく個人情報の流出事故ということで、国民健康保険証の回収処理委託に関する事故についてご説明させていただきました。

こちらについては発生いたしましたが、マイナンバー特定個人情報ファイルに関する事案はなかったというところで回答しております。また、ヒヤリハット案件につきましても、

この事例はありましたが、マイナンバーに関するヒヤリハット案件はないということでお答えさせていただいております。

なお、住民基本台帳に関する事務につきましては、全項目評価書であるため、区民からの意見聴取を行いました。意見等は特にございませんでした。

続きまして、項番2、ガバメントクラウドサービス利用による重要な変更についてご説明いたします。

引き続き、資料1-1、A4横判のものをご覧ください。

こちらは、ガバメントクラウドサービス利用が特定個人情報ファイルに重要な変更を加える場合に該当するため、保護評価を再実施するものでございます。

対象評価書のうち、全項目評価書は、住民基本台帳に関する事務、個人住民税の賦課に関する事務、予防接種に関する事務の3種類がございまして、資料の1ページ目から5ページ目に変更内容の記載がございまして。

また、重点項目評価書につきましては、6ページ目以降の国民健康保険に関する事務等の5種類がございまして。

なお、こちらのガバメントクラウドサービスを利用するに当たりまして、当区、板橋区における標準準拠システム等構築及び運用保守業務委託の保護措置につきましては、第一回の審議会でご審議いただいております。

それでは、資料1-1、1ページ目の中ほどをご覧ください。

まず、表の説明をさせていただきます。

こちらは、変更した内容を一覧表としてまとめたものでございます。

左から、まず、「No.」があります。

続いて、「評価書該当頁」、こちらには変更のある評価書の資料番号と、資料中のページ番号を記載してございます。

続きまして、「変更する項目」、該当ページの中でどの部分に変更されているかについて記載してございます。

続きまして、「変更前の記載」、こちらの欄は、今回、修正や削除ではなく、全て追加記載となりますので、全てにおいて、「右記追加」という記載をしてございます。

続きまして、「変更後の記載（案）」でございます。

まず、デジタル庁が示した記載例をベースに事務局で作成させていただいたものでございます。

こちらの「変更後の記載(案)」を小委員会に提出した上で、小委員会で内容をご審議いただいたものでございます。

表、一番右の「【小委員会後】変更後の記載」欄でございますが、一つ左の(案)を基に小委員会にてご審議いただいた内容を反映させております。(案)からの変更箇所については下線を引いてございます。

それでは、実際に資料1-1と評価書を見ながら、変更箇所を確認してまいりたいと思います。

資料1-2、評価書番号1、住民基本台帳に関する事務を例にしてご説明させていただきます。

これからにつきましては、小委員会による審議状況も併せてご説明させていただきますので、大変お手数ではございますが、資料1-1、資料1-2、資料2の三つの資料をご準備いただければと思います。

まず、資料1-1、1ページ目の表のNo. 1。

一番左のところに「No. 1」と書かれている部分をご覧くださいと思います。

左から2番目の「評価書該当頁」欄に、「(資料1-2) P 2 1」と書かれてございます。

左から3番目の「変更する項目」欄に、「II-6 ①保管場所」と書かれておりますので、資料1-2、分厚い資料の21ページをお開きいただき、21ページの上の部分、「①保管場所」とありますので、そちらをご覧くださいと思います。

上から3番目に、「ガバメントクラウドにおける措置」という8行の記載があるかと思いますが、今回、こちらの部分を追加記載させていただいてございます。

こちらの記載に対しまして、小委員会でどのような議論が行われたかについては、資料1-1と資料2の2ページ目、先ほど見ていただいた、3、審議概要をご覧くださいと思います。

資料2の2ページ目、下から8行目、(2)ガバメントクラウドサービス利用による重要な変更に伴う再実施についてという部分でございます。

資料1-1をちょっと見比べていただきたいんですけれども、どういった質問があったかといいますと、資料1-1の「変更後の記載(案)」の上から5行目に、「ISMAPのリスト」という記載に線が引かれてあるかと思いますがけれども、まず、その部分、ISMAPとはそもそも何ですかというところで、会の中で、まず言葉の定義づけをしっかりと

みんなで共有しようということでご質問がありました。

こちらにつきましては、昨今、クラウドサービスの利用が増えてきたため、国がクラウドサービスのセキュリティ基準を策定いたしました。策定した基準に基づき、クラウドサービスを評価登録する制度をISMAPといいます。こちらに関しては、定期的な監査があり、登録が継続している限り、セキュリティが担保されている安全なものでございます。

続きまして、同じ部分、資料2の3ページの一番上、(イ)に行ってください、「ISMAPのリスト」と記載があるが、この記載がそもそも正確ではないのではないかとご質問をいただいております。

ISMAPリストには2種類あり、ISMAP-LIUクラウドサービスリストは、リスクの小さい場合に例外的に許容される追加的な基準のため、今回の事例にそぐわない。

正式名称で記載すべきではないというご指摘をいただいたので、正式名称を詳しく、正確に「ISMAPクラウドサービスリスト」と記載してございます。

ISMAPリストといいますと、ここに書いてあるとおり、ISMAP-LIUクラウドサービスリストとISMAPクラウドサービスリストの2種類があり、ISMAPクラウドサービスリストが正確な記載でございます。

ですので、資料1-1の一番右のところ、線を引いております「ISMAPクラウドサービスリスト」というふうに修正させていただきます。

続きまして、資料2の3ページの(ウ)でございます。

バックアップ用データは、国、板橋区、どちらで契約しているものかという質疑がございました。

資料1-1の「変更後の記載(案)」の下3行のところを見ていただくと、「バックアップも日本国内に設置された複数のデータセンターのうち、本番環境とは別のデータセンター内に保存される」、ここの部分に対するご質問でございます。

こちらに対しては、バックアップ用のデータセンターにつきましては、国が契約してございます。

続きまして、資料2の3ページ、今、見ていただいているところの下に、イとあると思うんですが、イのさらに(イ)の部分をご覧いただければと思います。

資料1-1については、1枚おめくりいただいて、2ページ目をお開きください。

さらに、すみません、資料1-2については、今開けていただいている21ページの下部分、「③消去方法」というところがありますけども、そこをご覧いただければと思

ます。

資料2の3ページ目のイの（イ）でございます。

どのような審議が行われるかについてですが、「既存システムの移行については～」の記載箇所はこちらでよいのか。評価書同欄の＜当区における措置＞内に文言を整理した上で記載すべきではということが書かれてございますが、資料1-1の2ページを見ていただいて、「変更後の記載（案）」の③のところに、「既存システムについては」から「環境の破棄等を実施する」と記載があるかと思えますけれども、こちらについては、ガバメントクラウドにおける措置ではなく、そもそも板橋区における、当区における措置であるため、ここに書かれていること自体がよくないんじゃないかということでご指摘をいただいております。

これを受けまして、この③の部分は、当区における措置のところに、文言、場所が変わっただけでなく、文言を整理して、当区が利用しているシステムのガバメントクラウドへの移行に際しては、当区が委託した開発事業者がデータ抽出及びクラウド環境へのデータ投入並びに利用しなくなった環境の破棄等を実施するというところで書き加えております。それが、資料1-2の21ページに反映されてございます。

③の消去方法のところで、基本的には、3番目のガバメントクラウドにおける措置というところに追加記載がなされているところなんですけれども、③の部分、既存、当区が利用しているシステムの部分については、一番上の、当区における措置、こちらに書かれるのが適切ではないかということで、こちらの方に反映をさせていただいているところでございます。

以下、資料に記載のとおりの変更となっております。

ただいまの例でお示しさせていただいたとおり、小委員会では、より正確に分かりやすく、細部までご審議いただいております。

なお、今回変更する評価書は、ただいま確認していただきました住民基本台帳に関する事務に加えまして、残り二つの全項目評価書と五つの重点項目評価書がございますが、内容が重複するため、説明を省略させていただきたいと存じます。

また、住民基本台帳に関する事務を初めとして、三つの全項目評価書につきましては、区民からの意見聴取を行いました。意見等はございませんでした。

最後に、今後の流れですが、本日、審議会の承認が得られれば、その旨、区長に答申した後、区長が評価書の変更を決定し、国の個人情報保護委員会に提出し、公表するという

手続となります。

簡単ではございますが、説明は以上でございます。

○佐藤会長 ありがとうございます。

ちょっとかなり技術的な内容を含みます案件でございますので、私の方で、一旦、整理をさせていただいた上で進めたいと思っておりますけれども、まず、大前提といたしまして、これは第1回審議会のところでも整理させていただいたことの復習になってしまうんですが、いわゆる個人情報保護法と地方公共団体におきます個人情報保護条例の関係を改めて整理しようということになりまして、当審議会は、かつては当区におきます個人情報保護措置について、事前審査を行い、承認を与えるというような形の機能を果たしてきたわけでございますが、それにつきましては、事後的な報告を通じてのチェックというふうに仕組みが変わっております。

他方で、この審議会が持っておりますもう一つの権利として、個人情報保護法ではなくて、いわゆるマイナンバー法に基づく制度運用についてのモニタリング機関という役割がございます。

これは、自治体によりましては、そのために別の組織を置くということもあるんですが、当区の場合には、この審議会がその二つの役割を兼ねるというふうになっております。

こちらの仕組みの方につきましては、事前審査型の承認を与えるという、もともとの法律上の、あるいは制度上の役割というものが現在も維持されております。

それに基づきまして、今、お諮りしております案件は、個人情報のうちマイナンバーを含む情報、これを特定個人情報と申しますが、特定個人情報を含む行政事務については、リスクが大きいということから、あらかじめ地方公共団体においてリスクを洗い出して、それに対する対応策を定めていくということをしなければ業務を進めてはいけないというのが法律上の仕組みでございます。

これは、マイナンバーを利用した行政事務を始めるに際して、その事前チェックというものを行ったわけでございますが、状況が刻々変わってまいりますので、5年以内に評価をし直すという作業を未来永劫やりましょうということが法律上の仕組みでございますが、今回は、今、お手元の資料の1-2から1-9というところに提示されております、これが事前チェックの結果であるんですが、これを改定するということになされたということになります。

この改定を当区が行うに際しましては、法律上定められております審査というものをき

ちんで行うということでございまして、そのための機関、権限がこの審議会に与えられているわけですが、今、事務局からご説明いただきましたように、相当、技術的に細かい内容をチェックしなければならないということでございまして、全体会でやるにはやや負担が大きいということで、小委員会というものを設置いたしまして、そこで審査を悉皆的に行った上で、その結果を当審議会にお諮りして議決をいただくという形になります。

したがって、他のいわゆる個人情報保護法に関する案件の多くは、報告、了承という形で議事を進めるわけですが、本件につきましては、お諮りをし、議決をいただくという形になります。その議決をいただくべき内容について整理していただいた表というものが、お手元の資料の1-1というところで、この点が変わりますという一覧表でございまして。

この1-1というものの出所由来、なぜこういうふうになったのかということの説明する資料というものが2ということになります。

非常に、今回は1-2から1-9ということで量が多いのでございまして、実は内容的には、クラウドサービス、ガバメントクラウドというものを利用するについて注意すべき点というものを付け加えるということでございまして、内容的には三つの、1-2、1-4、1-5というものが今上がっておりますけれども、こういったものに共通しているということで、今、事務局からは1-2というものを使ってご説明をいただきましたが、同じものが1-4、1-5にも付け加えられているということでございまして。

このような形で小委員会で審議をいたしました結果が、ただいま事務局からご説明いただいたものでありますけれども、これを当審議会において議決いただくために、小委員会として、当審議会に上程する（案）という形で文書を策定しております。

中身は今のものであるんですけれども、それを小委員会の観点でまとめたものでございまして。これにつきましては、私は小委員会の座長を兼ねておりますので、私の方からお諮りさせていただきます。

小委員会からの当審議会に対する答申の（案）でございまして。

なぜ答申の（案）になったかということ、当審議会に議決をしたものが答申となって、これを区長に答申すると、そういうプロセスからでございまして。

まず答申案でございまして、「住民基本台帳に関する事務」全項目評価書、「国民健康保険に関する事務」重点項目評価書に関し、区長が行った一定期間経過前の再実施及び「住民基本台帳に関する事務」全項目評価書、「国民健康保険に関する事務」重点項目評

価書、「個人住民税の賦課に関する事務」全項目評価書、「予防接種に関する事務」全項目評価書、「地方税の収納管理に関する事務」重点項目評価書、「介護保険の資格に関する事務」重点項目評価書、「児童に関する手当及び医療に関する事務」重点項目評価書、「国民年金に関する事務」重点項目評価書に関し、重要な変更を加えることによる再実施に対し適合性及び妥当性の観点から審査を行った結果、特定個人情報ファイルの取り扱いに伴い、個人のプライバシーへの影響を及ぼす可能性がある事項について適切に評価するとともに、リスク対策が講じられていることが確認されたため、本件評価書を承認するというものでございます。

ということで、議案といたしましては、この小委員会の答申（案）というものを議決いただくということがお諮りになるわけですが、その前提といたしまして、本件評価書を承認するというものでございますが、その評価書というものの変更内容が資料の1-1に記載されているということになります。

少し説明が長くなってしまいましたけれども、やや特殊な案件でございますので、私の方から補足申し上げました。

というわけで、お諮りいたします。どうぞご意見、ご質問等をいただければと思います。いかがでしょうか。どうぞ、お願いします。

○小柳委員 全項目評価と重点項目評価の対象人数の違いということがあるんですけど、評価される項目というのは、何が全項目の中に入って、重点だとそれを多くするかということなのか。

○佐藤会長 ありがとうございます。

では、これは区政情報課長からご説明いただけますでしょうか。

○区政情報課長 では、お答えさせていただきます。

何がということなんですが、今回、項番2で重要な変更に伴う評価書の変更というふうにございましたが、ちょっと細かいことは別として、国が定めているのが重点項目評価書、重要な変更の対象である記載項目として1-1の項目を挙げてございます。

すみません、重点項目評価書が1-1ですね。それに対しまして、全項目評価書につきましては、1-9の項目が挙げてございますので、全部が全部そうかと言われると、多少の違いはあるかと思いますが、大体これぐらいの割合というふうにお考えいただければと思います。

○小柳委員 どういった根拠で落ちているかというのは。

○佐藤会長 制度設計上、今、量的には11と19という違いがあるということですが、差分の8のところですね、それがどういうものであるのか、簡単にご紹介いただけますか。

○区政情報課長 例えば差分のところであるのが、重点項目評価書になくて全項目評価書にあるのが、特定個人情報ファイルの取り扱いプロセスにおけるリスク対策（重大事故発生を除く）であったり、特定個人情報ファイルを取り扱う事務の内容であったり、かなり細かいところであるんですが、例を挙げるとすれば、これらでございます。

○佐藤会長 よろしいでしょうか。

全体として、これは法律上、設定されているものでございまして、当区が自ら独自に設定しているものではないんですけれども、全項目評価書で要求されている事柄というのは、マイナンバーを利用した行政事務について、考えられるチェックすべきポイントを全体として一応網羅し、その上で、全てに対してリスク対策を要求するというのが全項目評価書です。

これに対して、取り扱うべき事務の性質、あるいは取り扱うべき事務の量、主として量が大きなポイントになろうかと思いますが、によってですね、極めて技術的な項目等々については、必ずしもこの形で、評価書という形でリスクを洗い出すまでは必要がないというふうに国の方で考えていますというのがあって、それが八つほど落ちているということになります。

さらにもう一つございますのが、これは、全項目評価書を見ていただきますと、基本情報というところに書かれているんですが、リスクが低いと考えられるものについては、この基本情報に書かれているところのチェックだけで済ませるといって、一番量が少ない、三段階に。

ただ、当区の場合には、重点項目評価の形に、これは法令上義務がないものも格上げをして、より慎重な手続でチェックをするということを従来からやっているというふうに理解しております。

他はよろしゅうございましょうか。いかがでしょう。よろしいですか。

(なし)

○佐藤会長 それでは、ただいまの私の座長としての小委員会報告を含めて、ご承認いただければと思います。本件、承認の議決でよろしゅうございましょうか。

(異議なし)

○佐藤会長 ありがとうございます。では、そのようにいたします。

それでは、続きまして、報告事項に移ります。

情報公開及び個人情報保護審査会の答申につきまして、事務局から報告をいただきます。

お願いします。

○区政情報課長 それでは、資料3、情報公開請求に対する審査請求に係る情報公開及び個人情報保護審査会の答申について（概要）に基づき、ご報告させていただきます。

資料3をご覧ください。

1、件名でございます。

板橋区子ども家庭総合支援センターの設置室名の公文書公開請求について、こちらが令和5年2月11日になされました。

こちらの公文書公開請求について、令和5年2月21日付板橋区長が行った非公開決定処分に対する審査請求でございます。

処分の内容でございます。

（1）板橋区子ども家庭支援センター設置室名、個々の部屋の名前が知りたいという公文書公開請求に対し、処分庁は、令和5年2月21日付で公文書非公開決定処分を行いました。

（2）処分庁は、（1）の第一次処分における公文書非公開決定の結論を維持したまま処分理由を付け加えるため、令和5年3月16日付で、（1）の第一次処分を取り消して、再処分を行いました。

こちらはどうかといいますと、（1）のところ、2月21日付で非公開決定処分とした理由につきまして、一言で申し上げますと、施設の安全に支障が及ぶおそれがあるためということで非公開決定処分としてございます。

それに加えて、（2）、（1）の理由を維持したまま理由を付け加えております。施設の安全に支障を及ぼすことに加え、そこで行われる事務事業の適正な執行に支障があるおそれがあるためということで、令和5年3月16日付で理由を足してございます。

（3）処分庁は公開の可否について改めて検討を行った結果、一部の公文書については部分公開決定とするのが適切であると判断し、令和5年5月25日付で、再々処分を行ったということですが、後ほど出てきますけれども、四つの文書があるうちのひとつについては、部分公開決定と（3）でしてございます。

（1）（2）は全部非公開としてございましたが、（3）で、一部のものについては一

部公開ということにさせていただきます。

3、審査請求の内容でございます。

趣旨。

(1) 公開すべきである。

(2) 公開できないのであれば、必要としている情報のみ記載された文書を作成して、公開せよとの請求人の主張でございます。

4、審査経過でございます。

令和6年1月12日、諮問を受け、審査を行い、5月28日、答申が承認されたところでございます。

2ページ目をご覧ください。1枚おめくりください。

5、審査会の結論及び理由でございます。

結論でございます。処分庁が審査請求人に対して行った公文書公開請求に対する公文書非公開処分は妥当であり、これを維持するという結論でございます。

理由につきましては、以下のとおりでございます。

まず、争点を明確化しており、2点ございます。

(1) 国や地方公共団体が設置・管理する施設の概要等については原則公開されることが適当であるが、その所在を含め、詳細を明らかにせず、施設利用者の安全を確保する例は見受けられる。ここで一般的な話が記載されております。

続きまして、どのような施設がどのような理由で行政情報を非公開とするのかは、当該施設のセキュリティや利用者の安全性等が公開することにより生ずる損害や不利益を想定し、個別具体的に判断することが必要であるということで、ここでは個々の判断であるということが書かれており、次の段落で、具体的に子ども家庭総合支援センターは、3行下に行っていただいて、一番後ろの「また」以降、子ども及び家庭に係る多種多様な相談に対応することから、施設全体のセキュリティ、施設利用者の安全を確保することは施設管理者の責務である。

この責務の大きさを考慮すれば、施設の詳細な情報を公表することで生ずる保安上のリスクは高いと推測できる。

(2) でございます。審査請求人は、本件情報公開請求において、子ども家庭総合支援センターが保有する公文書を特定して、具体的にどの文書が欲しいとして公開請求しているものではなく、施設の個々の設置説明、部屋の名前が知りたいとしている。

そこで、処分庁は、設置室名という要件を備える文書について、処分庁が保有するものを、各階平面図、床面積求積図、清掃箇所一覧及び内部仕上表と四つに特定した上で、それらの公開の是非を判断したものである。

処分庁は、内部仕上表の一部を、先ほど申し上げましたけれども、変更して公開した他は非公開としたが、その理由としては、先ほど申し上げた施設の安全に支障を及ぼすおそれがある、プラス事務事業の適正な執行に支障があるという理由で非公開としてごさいます。そこで、本審査会では、それらの理由について、適切かどうかについて検討するとごさいます。

ここで四つの文書、各階平面図、床面積求積図、清掃箇所一覧表及び内部仕上表のうち、平面図、求積図、清掃箇所一覧表については、すみません、非公開としておりますので、今日、資料として用意はしてごさいませんが、例えば平面図であれば、マンションだとか、一戸建ての図面と同じように、1階のこの部屋に何があって、少し廊下を歩けば、次はこの部屋に何があってということで、部屋の詳細が書かれている図面でごさいます。

こちらにつきましては、やはり一般に広く公開することについては、施設の特性上、安全上、支障を及ぼすおそれがあることということで非公開としてごさいます。

一方、内部仕上表につきましては、今日は、すみません、追加資料で机の上に置かせていただてごさいます。

こちらについては、左の部分と右の部分を黒塗りしてごさいますが、それ以外のところは黒塗りせずに出してごさいます。

これは、見ていただければ分かるとおり、仕様といいますか、ここがタイルカーペットでできていますとか、どんなものを使っていますという内部仕上表になるんですが、なぜ左の部分を隠したかといいますと、ここに部屋の名前が書いています。

例えば「トイレ」とあって、横に続いて、何行か下に、また「トイレ」というふうに続いてあるので、1階の塊がこれらの部屋で、2階の塊がこれらの部屋でというのが容易にここを出すと想像できてしまうということで、部屋の個々の名前については黒塗りをさせていただて、それ以外については公開というふうにさせていただてしているところでごさいます。

すみません、資料3の2ページ目にお戻りください。

下から7行目、2の判断のところでごさいます。

これらの争点を明確化した上で、判断でごさいます。

(1) 各階平面図、床面積求積図、清掃箇所一覧及び内部仕上表は、いずれも建物の性格、諸室の配置だけでなく、警備や清掃等の委託業者を含めた職員や施設利用者動線、各室の利用形態などを推測し得る内容となっている。

これらは、子ども家庭総合支援センターの防犯機能を維持するために秘匿すべき内容であり、2行下に行っていたら、施設の安全に支障が生じるおそれがない箇所に限って内部仕上表を部分公開とした処理は合理的である。

3ページ目の(2)からでございます。

(2)の上から3行目、「また」以降です。「東京都板橋区子ども家庭総合支援センター一所长委任規則」では、児童福祉法及び児童虐待の防止等に関する法律に規定された専門的で、かつ配慮を要する者を対象にした事業を実施していることが認められる。こうした状況の中では、当該施設を利用する者の安全・安心を優先して確保することが施設管理者の責務であり、施設及び施設利用者の安全を実現する目的を達成するためには詳細を非公開とすることが妥当である。

このことから、1行下に行っていたら、内部仕上表を除く特定文書を非公開とした処分並びに当該施設を利用する者の安全・安心を損なうおそれがない箇所に限って、内部仕上表を、部分公開とした処分は合理的である。

(3)で、審査請求人が二つ、趣旨のところで、公開すべきであると、公開できないのであれば、二つ目ですね、必要としている情報のみ記載された文書を作成して公開せよの部分ですけれども、審査請求人の必要としている情報のみ記載されている文書を作成して、公開せよとの主張については、処分庁が保有する公文書に関する請求ではなく、本件は本審査会の審査の対象外であるとしてございます。

ここについてですけれども、今回、前提としては、公文書公開請求でございます。

1枚おめくりいただいて、4ページ目に条例をつけてございます。

この4ページ目の第2条の一番下に、(2)という部分があり、そこに「公文書」というふうに書かれているかと思えます。条例で公文書の定義がなされてございます。

「実施機関の職員が職務上作成し」から始まって、下から2行目に行っていたら、「実施機関が保有しているものをいう。」、これが公文書でございますので、保有している四つの文書について審査を行ったところでございますが、請求人の主張、「公開できないのであれば必要としている情報のみが記載された文書を改めて作成して公開せよ」に関しましては、そもそも公文書公開請求のところからは外れるので、審査の対象外であると

いうところでございます。

最後、審査請求に対する決定でございますが、板橋区長は、上記答申を受け、本件審査請求を棄却するとして、令和6年7月2日付で審査請求人に通知したところでございます。

簡単ではございますが、説明は以上でございます。

○佐藤会長 どうもありがとうございました。

ご発言をいただきたいと存じますけれども、先立ちまして、私の方から、1点、本件のご報告をいただいている趣旨につきまして、議長として一言申し上げます。

当区の条例、情報公開条例の下、個別具体的な提訴というものが発生した場合には、当審議会ではなくて、審査会という別の補助機関において案件処理を行うことになっております。

簡単に申し上げますと、個人情報保護に関してはちょっと制度が変わりましたけれども、情報公開に関して申し上げますと、当審議会が持っている役割というのは、制度全般についてのモニタリング、これが役割です。個別の情報公開請求に関します不服申立処理は審査会にお任せするという形で役割を切り分けております。

にもかかわらず、審査会の答申というものを当審議会にご報告いただいておりますのは、このような個別案件の処理の中から、制度に関して我々が学ぶこと、あるいは制度改革によって対応するべきような論点というものがあつたらば事例に学ぶということでございまして、趣旨として、当審議会が、当審査会の具体的な答申、結論に対して、これはおかしいと、これは認容できないということを申し上げ、言わば地方裁判所判決に対して高等裁判所の判決が副審的なチェックを行うということを制度趣旨にしておりません。そのような権限は当審議会は持っておりません。

ということでございますので、ご自由にご発言をいただきたいのですけれども、今申し上げました点については、審査会の活動というものに対して一定の敬意を払いながら、当審議会は常に審議するということが求められておりますので、余計なことかと思えますけれども、一言前もって整理させていただきました。

大変恐縮でございますが、以上を前提としてご議論いただければと思います。

いかがでしょうか。

どうぞ、河野委員。

○河野委員 今回のこの非公開決定の理由とか、ここに書いてあることは全然疑問がなく、妥当だと思ふんですけれども、例えばこの知りたいとおっしゃっている方は、名前だ

け知りたいんだよと、ただ、公文書の中には名前だけ書いてある書類なんてないので、公開するとしたら、名前が載っているのに他にいろいろ出したくないものも出てきちゃって、その名前のとこだけ出しても、知りたくない情報もちょっと推測されてしまうから、出せませんということなので、正しいと思うんですけども、板橋区子ども家庭総合支援センターの特性を知るためというのは、つまりどんなことをやっていて、どんなお部屋があるのか知りたいだけなんですということなんだとしたらば、そういったものが書いてある一般区民向けの、家庭支援センターはこんなことをやっていて、こんな何々室、何々室みたいなのがありますよみたいな区民向けのそういうお知らせというか、一般的な資料みたいなのがもしあったとしたら、それは公文書ではないということなんですか。ちょっとそこがよく分からなくて。

○佐藤会長 ありがとうございます。

まず、私が答えるべきポイントとそうじゃないところがあると思うんですけど、まず、区政情報課長の方から。

まず、そのような文書があるのかなのか。あった場合に、それは公文書なのかどうか、その2点をちょっとお答えいただけますか。

○区政情報課長 そういった文書は、文書といいますか、案内、ホームページ等にも公開、何せかなりセンシティブなところなので、公開できる部分についてはホームページを含め公開させていただいてございます。

質問の回答になっているかというところなんですけど、資料3の12ページを、すみません、ご覧いただけますでしょうか。

資料3の12ページの真ん中辺りの第19条のところでございます。

「情報の公表及び提供」の部分でございます。

こちらを読ませていただきますと、「実施機関は、この条例による公文書の公開を行うほか、区民が必要とする情報を的確に把握するとともに、当該情報を積極的に提供するよう努めなければならない」というふうに、条例上、規定されてございます。

ですので、今回の請求に関しては、このような結論だったんですけども、こちらの方については、本来、情報公開があった場合は、誰からあったよということも当然伝えないんですけども、請求者ご本人が子ども家庭総合支援センターに電話をして、私は今情報公開をしているんですけども、ちょっと詳しい話を聞かせてくれないかというアプローチがあったので、子ども家庭総合支援センターで、今回の文書は非公開でしたけれども、で

○おばた委員 そうすると、一度処分は行ったけれども、内部的に再度検討を行った結果、二度、三度というような決定を行ったという理解でよろしいですね。

○区政情報課長 はい、委員がおっしゃるとおりでございます。

○おばた委員 分かりました。

あと、最後なんですけど、最終的にこの黒塗りをした資料を、請求人の方に、開示を7月2日付でお渡ししたという、そういうことでよろしいんでしょうか。

ちょっといつのタイミングで決定をして、請求人の方に何をお渡しし、情報を提供したのかということを確認させてください。

○佐藤会長 区政情報課長、お分かりになりますか。

○区政情報課長 すみません、1ページ目の2番の処分の内容の(3)のところに、黒塗りの文書を渡したのは令和5年5月25日付でございます。

○おばた委員 そうすると、この3ページの7月2日付で通知したというのは何を通知したんですかね。

○区政情報課長 これらを、2番の(1)から(3)をやっている中で、4番の審査経過のところ、令和6年1月12日に諮問を受けて審査を行った後に、令和6年7月2日付で審査請求にこの答申案が承認され、採決を行ったということで通知させていただいております。

○おばた委員 なるほど。分かりました。整理すると、では、令和5年5月25日付でこちらの資料を提示して、それを踏まえた審査会の答申について、令和6年7月2日に通知したということでよろしいんですね。

○区政情報課長 さようでございます。

○おばた委員 よく分かりました。ありがとうございます。

○佐藤会長 他はいかがでございますでしょうか。

最初に河野委員からご指摘ありました点については、実は事前打合せのところ、私からも似たようなことを事務局にお尋ねした経緯がございます。

と申しますのは、この情報公開条例の作り方については、自治体ごとにいろいろバリエーションがございまして、個人情報保護条例というのはほぼ全国統一になっているわけですが、この審査請求人がご主張のような、文書を新たに作ってくださいということを、当区の場合には、この条例ではそのような制度は用意しないけれども、19条で、区の一般的な行政の対応としてそういったことをやるようにということを定めております。

別の自治体においては、条例の中で、いわゆる公開請求に対応する対応の一種としてそれをやるという制度を持っているところもございまして、これはどちらがいいとか悪いかということではないと思うのですけれども、運用として、あるいはバリエーションとして選択の余地があり得るというものでございます。

その意味で、当審議会の立場としますと、制度論として考えたときに、もう一つの制度というようなものとの比較検討というようなことをするという研究のようなことをやるというのも一つ考えられる選択肢ではございますけれども、まだ今回のところでは、19条に基づいた情報提供が行われており、それがご本人にとって一定の意味を持ったというご報告がございましたので、議長といたしましては、今の段階で、その点について当審議会の検討対象とするには、まだ機が熟していないのかなというふうに考えております。

もし委員の皆様から、今後、そういった点、他の基礎自治体の情報等々を含めて、検討し、当審議会が区長に対して上申をする権限を与えられておりますので、諮問がなくても、制度改正を発議するということは可能でございますけれども、もし委員の皆様から、今後、それが必要であるということがございましたら、改めて議題として整理するということの可否を検討したく存じますので、事務局を通じまして、私の方へお申し出いただければと思います。

繰り返しになりますが、今の段階で、会長としてこれを審議対象とするということをご予定してはおりませんが、将来的な課題としては常に念頭に置いておきたいというふうには考えております。

どうぞ、お願いします。浅野委員。

○浅野委員 質問でよろしいのでしょうか。

○佐藤会長 もちろん、もちろん。

○浅野委員 この判断のところなんですけれども、各階平面図、床面積求積図、あと、清掃箇所一覧及び内装仕上表は、「いずれも建物の性格、諸室の配置だけでなく」というところがあるんですけれども、この推測し得る内容となっているという判断においては、何か、今、公開されているところに内装仕上表というものがありますけれども、こちらの方は推測し得る内容ではない。

こちらの平面図はもう当然そうだと思いますけれども、そういった表というのは、動線なども、あとは各階の部屋の配置とかが推測し得る内容である、こちらはないという判断については、何か内装の専門家などの知見を得た上での判断なんでしょうか。

○佐藤会長 審査会の審査プロセスについて各論的に私がお答えすることはできませんが、一般的に言いますと、審査会は、条例上の権限として、インカメラ手続という権限を持っておりまして、非公開になっている文書も、審査会の委員は実物をチェックできるんですね。それに基づいて、これはという判断をされたのでないかと推測はできるかと思えます。

今委員がご指摘されたような、外部専門家の意見の聴取まで行っているかどうかについては、私は事前打合せのところでは情報を得ておりませんが、区政情報課長、何かご存じのことはありますか。

○区政情報課長 そうですね。第三者委員会ということで、弁護士の先生であったり、大学の先生であったりというところがメンバーとして入ってございますので、その方々の知見を借りながらということではございます。

○浅野委員 そうですか。私も自分の会社の方で内装仕上工事の方を請け負っているもので、この天井高と、いろいろな例えば厨房用というところの記載があって、天井高が全て2,300で統一というところ、大体、こういう施設があるのかな、例えばこの防臭防滑防汚というところだと、ここはトイレであるとか、そういったような想像のところは、当然、詳細な図面は分かりませんが、そういった想像がつくというところですら危険ということであれば、こちらの内容というのも、その上で、令和2年度に新築工事が行われた施設であるというところなど、そこそこ想像し得るところまでが危険であるというところ、その想定を広くしてしまうと、想像が専門家であればつく場面もあるかなというふうな私の方はこれを拝見してて捉えたんですね。

なので、どこまでが危険かというところの線引きというのが、当然、こちらで私の方が見ても、図面がどうこうということは分かりませんが、何か設備がどうだろうなというような想像はついて、ものすごくその設備に、中に入って何か悪意を持ったことをするという執念さえあれば、たどることができるぐらいの情報が載ってしまうのはよろしくないかなと思ひまして、ちょっと疑問が湧いたので質問させていただきました。

○佐藤会長 ありがとうございます。恐らくこの判断のところの2行目の終わりにある利用者動線というのが一番ポイントではないかと思ひます。

それから、これ以外の三つはこの動線が相当程度の想定で、今、平面図が典型ですよ。

例えばDVの被害を受けた方が一時的にそこにおられるというような場合に、DVの加害者が「出せ」というようなことを叫びながら乗り込んでくるといったようなときに、どこで止めるのかというようなことなどがここで考えられるリスクに含まれると思うんです。

けれども、そんなようなこととの関係では、今、委員ご指摘の、ここがトイレであるという事自体は確かにこれで分かるかもしれませんが、この表からすると動線までは分からないというところではないかと想像いたします。

○浅野委員 なるほど。はい、分かりました。

○佐藤会長 どうぞ、高木委員。

○高木委員 素人考えですが、このセンターの設置場所なんかはやっぱり秘匿されていますか。どこに置くという。

○区政情報課長 場所、電話番号、どんな機能がある、の一部についてはホームページで公開しています。

○高木委員 そうですか。

○区政情報課長 ただ、詳細は当然述べられてはいないです。

○高木委員 そうすると、しつこい人だとそこに行って外から見るということはできるわけですね。

○区政情報課長 見ることはできますが、どのような機能があるかについては詳細は申ししておりません。

○佐藤会長 ということでございますが、論点としては、先ほどのような河野委員がご指摘のところに関して、私の方で一旦整理させていただくことで受け止めるということにしたいと存じますが、それでよろしゅうございましょうか。

(異議なし)

○佐藤会長 ありがとうございます。

それでは、これにつきましては、報告を受けて、報告を了としたということにいたします。

本日の議題は、以上をもちまして全て終了いたしました。閉会といたたく存じます。

事務局の方から、何かご連絡ありましたらお願いいたします。

○区政情報課長 皆様、ありがとうございました。次回審議会につきましては、来年3月21日金曜日、14時30分からを、現在のところ、予定してございます。

委員の皆様につきましては、改めて詳細なご通知を差し上げたいと存じます。

それでは、お忙しい中、本日は長時間にわたりありがとうございました。

午前10時40分 閉会